

名古屋市医療的ケア児実態把握調査の結果（概要）

《Ⅰ 調査概要》

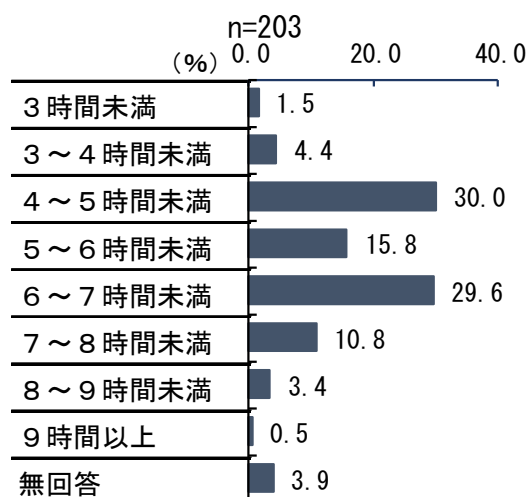
区分	一次調査	二次調査
調査対象	愛知県内で医療的ケア児の支援に携わっている支援機関	名古屋市内に居住する平成31年4月1日時点で、医療的ケアを必要とする児童の保護者
調査方法	郵送配布、郵送回収	支援機関を通じて配布 郵送回収またはウェブ回答
調査時期	平成31年4月～7月	令和元年9月～11月
回収結果	回答支援機関数 923 機関 (市内の支援機関に限る)	未就学児 112 件・学齢児 92 件
回収率	—	未就学児 51.1%・学齢児 42.8%
調査の委託	(株)イープラネットに委託	(株)サーベイリサーチセンターに委託

《Ⅱ 主な調査結果》

①本市において在宅で生活している医療的ケア児数（推計値）【報告書P7】

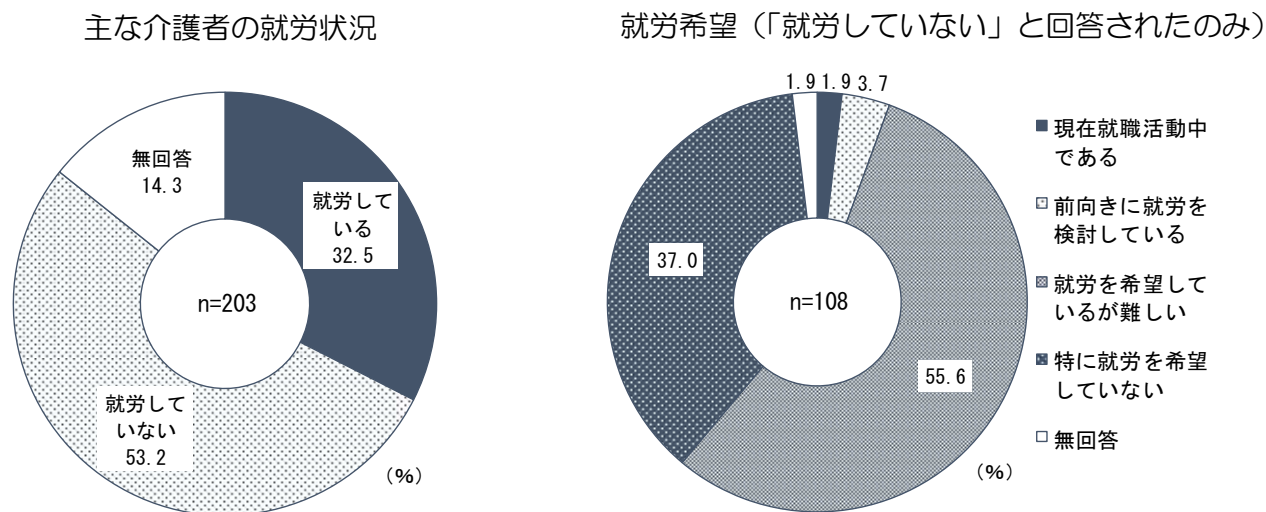
未就学児	学齢児	合計
219 人	215 人	434 人

②主な介護者の平均睡眠時間【報告書P17・70・113】



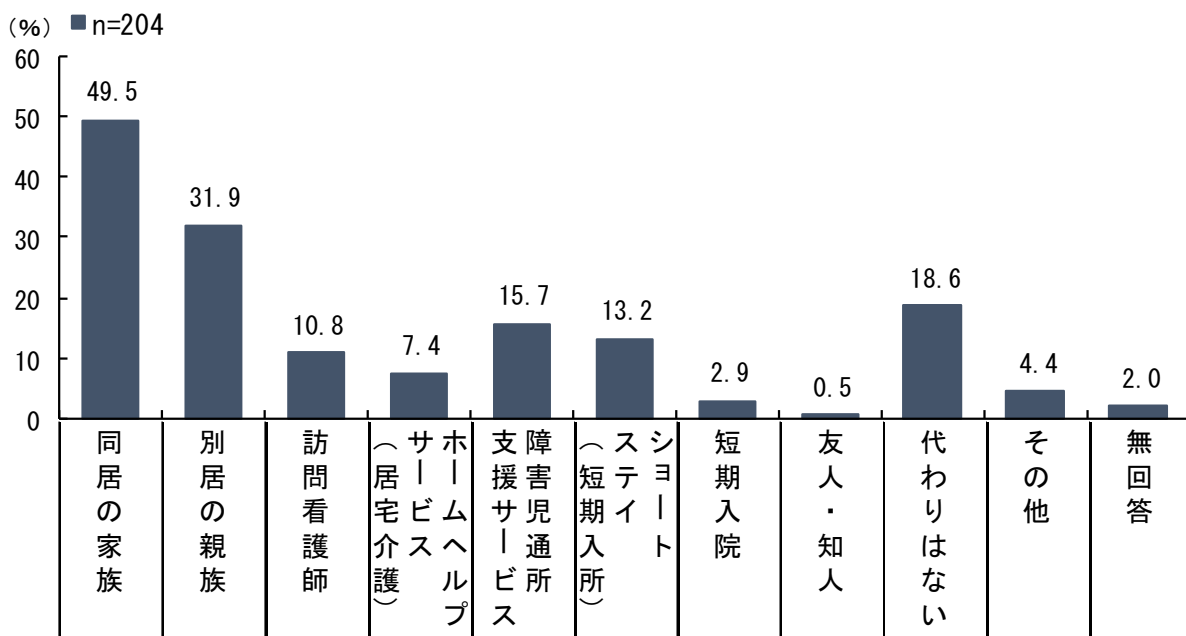
●主な介護者の平均睡眠時間は、「6時間未満」が5割を超えている。

③主な介護者の就労状況等【報告書P19・72・115】



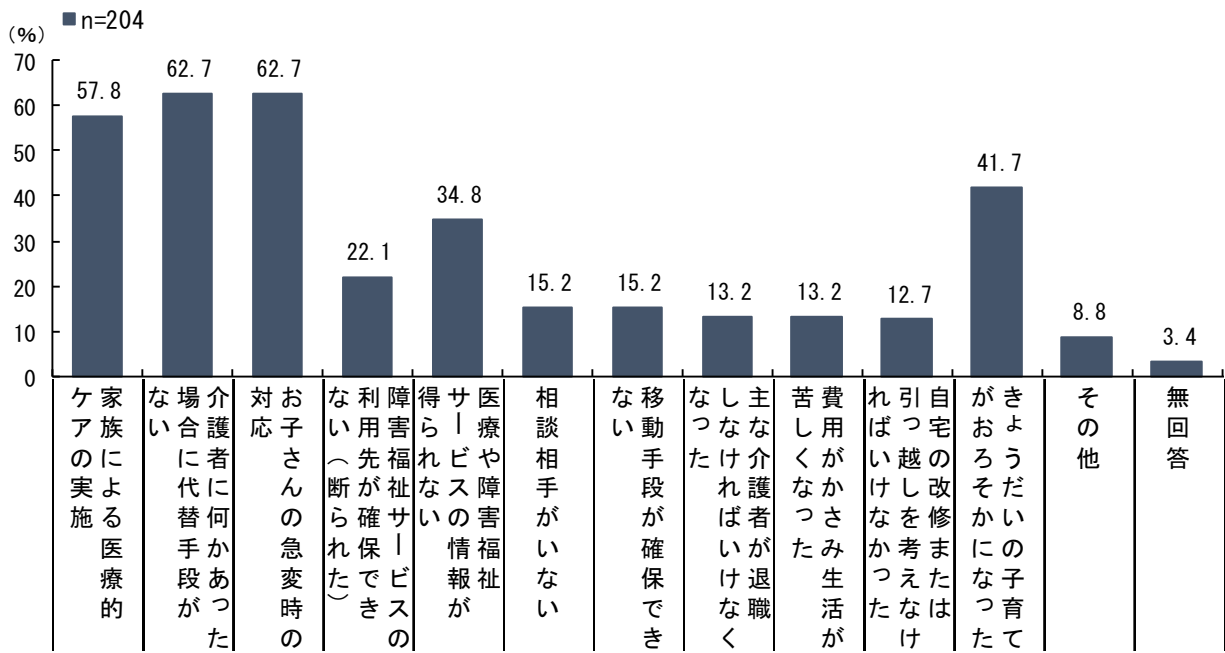
●主な介護者のうち 53.2%が「就労していない」が、そのうち 55.6%は「就労を希望しているが難しい」と回答している。

④主な介護者の緊急時の対処方法【報告書P22・75・119】



●主な介護者の緊急時の代行者は、「同居の家族」が 49.5%と最も高く、次いで「別居の親族」(31.9%)、「代わりはない」(18.6%)となっている。

⑤在宅移行時の困りごとや不安【報告書P25・77・122】



●在宅移行時の困りごとや不安は、「介護者に何かあった場合に代替手段がない」と「お子さんの急変時の対応」がともに62.7%と最も高くなっている。

⑥新設・拡充してほしいサービス【報告書P35・85・131】

*上段は件数、下段は割合 (%)

調査種別	全体	今後、新設や拡充してほしいサービスがあればお答えください。																			
		増えたい	緊急時に受け入れ可能	小児在宅医療の増えたい	小児在宅医療の増えたい	身障児に対する対応	看護士に対する対応	とらえどころのない	福祉施設に関する情報	訪問看護	緊急時に受け入れ可能	緊急性を高める	ケアを支援する	介護職員の養成	いのちを守る	医療的ケア	地域での配置	タレントの育成	サポーターの育成	その他	無回答
全体	204	88	93	75	105	129	113	107	90	26	15										
	100.0	43.1	45.6	36.8	51.5	63.2	55.4	52.5	44.1	12.7	7.4										
未就学児	112	44	42	42	59	58	52	55	51	16	14										
	100.0	39.3	37.5	37.5	52.7	51.8	46.4	49.1	45.5	14.3	12.5										
学齢児	92	44	51	33	46	71	61	52	39	10	1										
	100.0	47.8	55.4	35.9	50.0	77.2	66.3	56.5	42.4	10.9	1.1										

●新設・拡充してほしいサービスは、「緊急時に受け入れ可能なショートステイが増えると良い」が63.2%と最も高くなっている。調査種別でみると、学齢児で「緊急時に受け入れ可能なショートステイが増えると良い」が未就学児より20ポイント以上高くなっている。

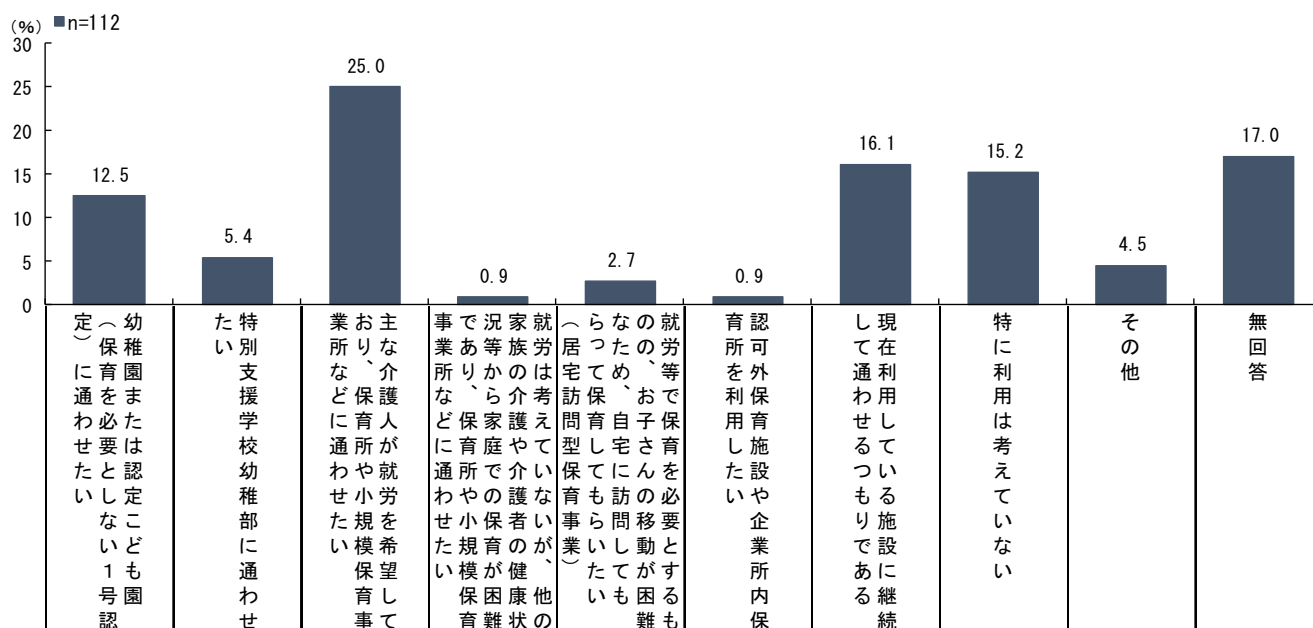
⑦居宅訪問型児童発達支援の利用希望【報告書P43・90】

*上段は件数、下段は割合(%)

	全体	利用したい	特に利用 したくない	無回答
未就学児	112	16	54	42
	100.0	14.3	48.2	37.5
学齢児	92	10	56	26
	100.0	10.9	60.9	28.3
合計	204	26	110	68
	100.0	12.7	53.9	33.3

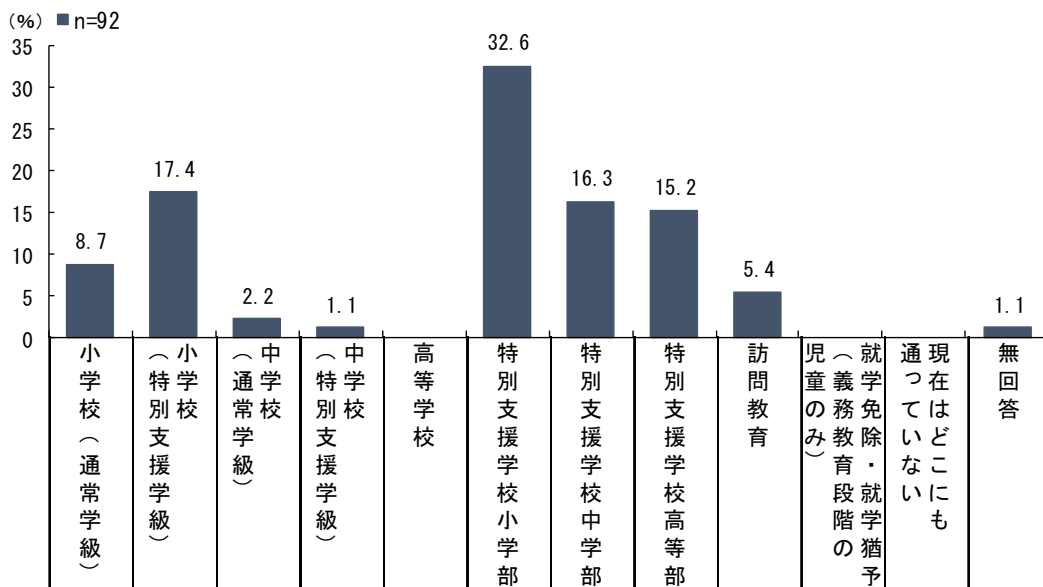
●平成30年度に新設されたサービスである居宅訪問型児童発達支援であるが、1割強(12.7%)の保護者がサービスの利用を希望している。

⑧今後の幼稚園や保育所等の利用希望(未就学児に限る)【報告書P52】



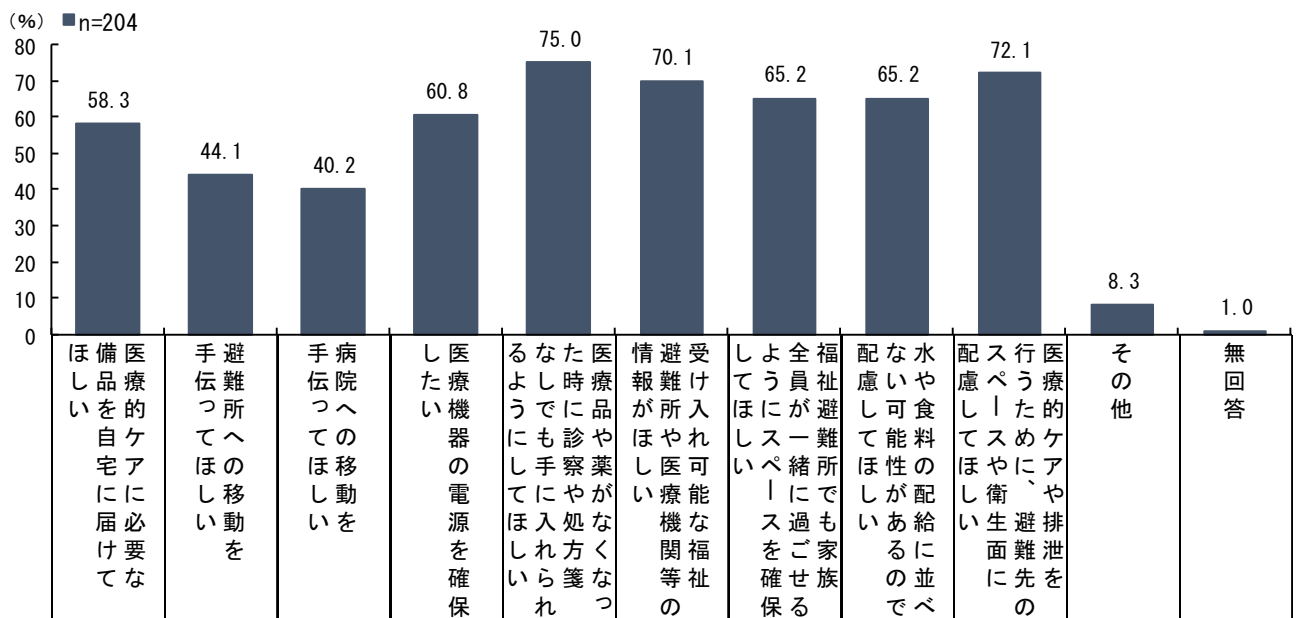
●幼稚園や保育所等の利用希望は、「主な介護人が就労を希望しており、保育所や小規模保育事業所などに通わせたい」が25.0%と最も高く、次いで「現在利用している施設に継続して通わせるつもりである」(16.1%)となっている。

⑨通っている学校等（学齢児に限る）【報告書P96】



●現在、通学している学校等は「特別支援学校」（小学部から高等部までの合計）が64.1%と最も高くなっている。本調査において「特別支援学校」に通っている児童は、すべて県立の特別支援学校に在籍している。

⑩災害時に希望する支援【報告書P58・105・138】



●災害時に希望する支援等は、「医療品や薬がなくなった時に診察や処方箋なしでも手に入れられるようにしてほしい」が75.0%と最も高く、次いで「医療的ケアや排泄を行うために、避難先のスペースや衛生面に配慮してほしい」（72.1%）、「受け入れ可能な福祉避難所や医療機関等の情報がほしい」（70.1%）となっている。